

災害看護研修におけるルーブリック自己評価システムの活用

宮崎 誠¹⁾, 渡辺 博芳^{1),2)}, 眞坂 美江子²⁾, 高井 久美子²⁾, 堀内 美由紀³⁾

1) 帝京大学 ラーニングテクノロジー開発室

2) 帝京大学 理工学部 情報電子工学科

3) 奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

miyazaki@lt-lab.teikyo-u.ac.jp

Use of Rubric based Self-Assessment System for Disaster Nursing Training Course

Makoto Miyazaki¹⁾, Hiroyoshi Watanabe^{1),2)}, Mieko Masaka²⁾,
Kumiko Takai²⁾, Miyuki Horiuchi³⁾

1) Learning Technology Laboratory Teikyo Univ.

2) Faculty of Science and Engineering, Teikyo Univ.

3) Faculty of Health Science, Naragakuen Univ.

概要

帝京大学情報電子工学科では、汎用的能力ルーブリックとチェックリストを開発し、LMS と連携した LTI ツールのルーブリック自己評価システムによる評価活動を行っている。ルーブリック自己評価システムは、他の実践でも活用を進めており、現在、奈良県看護協会の協力を得て県内現役の看護師を対象とした災害看護研修への導入に向けた検証を行っている。研修は、災害時に看護師に求められる「災害看護コンピテンシー」に基づいて、それらの修得に結びつくよう教材および学習活動が設計されている。本報告では、コンピテンシーを評価の観点としてルーブリック自己評価システムに実装するためのデータモデルを検討し、災害看護研修でのコンピテンシー自己評価の活用と期待する効果について述べる。

1 はじめに

帝京大学情報電子工学科では、汎用的能力ルーブリックとチェックリストを開発し、評価の取り組みを進めてきた[1]。汎用的能力ルーブリックを使った評価については、Excel を使った実践から、LMS と連携した LTI ツールの汎用的能力評価システムによる実践に移行している[2]。このシステムでは、汎用的能力に限らずルーブリックであればシステムにて自己評価が可能であることから、現在はルーブリック自己評価システムと呼称を改め、プログラミングルーブリックによる自己評価にも活用している[3]。ルーブリック自己評価システムは、他の実践でも活用を進めており、現在、奈良県看護協会の協力を得て県内現役の看護師を対象とした災害看護研修への導入に向けた検証を行っている。研修は、災害時に看護師に求められる「災害看護コンピテンシー」に基づいて、それらの修得に結びつくよう教材および学習活動が設計されている。本報告では、コンピテンシーを評価の観点

としてルーブリック自己評価システムに実装するためのデータモデルを検討し、災害看護研修でのコンピテンシー自己評価の活用と期待する効果について述べる。

2 コンピテンシーの構造と評価指標としてのデータモデル

まず、評価の観点について、災害看護コンピテンシーは、International Board of Standards for Training, Performance and Instruction (ibstpi®)の教育専門職やオンライン学習者のコンピテンシー標準を参考に領域(Domain)、コンピテンシー、行動記述(Performance Statement)の3層構造で表現されており、災害現場における看護師の仕事は、3領域、合計9つのコンピテンシー、それを支える合計63の行動記述で構成されている[4]。一方、ルーブリック自己評価システムは、ルーブリック個々の評価の観点にチェックリストが紐付いた構造をしており、紐付いたそれぞれのチェックリストは、大項目でチェックリストを分類した形で格納している。

つまり、災害看護コンピテンシーおよび **ibstpi®** のコンピテンシー標準の 3 層構造は、ルーブリック自己評価システムの評価の観点と同じ構造であることが分かる(表 1)。

次に自己評価にあたって評価の観点の評価するための尺度を考える。ルーブリックは、評価の観点だけでなく、どの程度達成できたかを表す評価の尺度も備えており、二次元のマトリクス構造で表される。チェックリストについてもチェックあり・なし、あるいは複数段階の尺度があると解釈でき、同じくマトリクス構造で表すことができる。ルーブリック自己評価システムでは、評価の観点とともに評価の尺度も格納している。よって、コンピテンシーを実装するためには、それを評価するための尺度も必要である。今回、災害看護研修の担当者らと尺度を検討し、看護研修でよく用いられる「できない」「助言や支援を得ればできる」「自立してできる」「他者へ指導ができる」の 4 段階評価を採用し、システムに実装した。

表 1 各評価基準の構造

汎用的能力 ルーブリック	災害看護 コンピテンシー	ibstpi® コンピテンシー 標準
ルーブリック	領域	領域
チェックリスト 大項目	コンピテンシー	コンピテンシー
チェックリスト	行動記述	行動記述

3 災害看護研修への導入

前年度までは対面研修にて 2 日間で実施されていた災害看護研修だが、今年度は知識に関する内容を e ラーニングで、また対面研修を 1 日で実施する予定となっており、研修の開始を現在控えているところである。ルーブリック自己評価システムによる災害看護コンピテンシーの評価活動は、e ラーニングと対面研修に導入を予定している。コンピテンシーの利用法では、**ibstpi®** のフェローである鈴木 (2017) は、オンライン学習者コンピテンシーの利用法について「学習者自身の活用」「学習支援者による活用」「教育提供組織による活用」という 3 者の立場でまとめており、そこから期待される効果とともに述べている[5][6]。これを災害看護コンピテンシーの利用法として援用しつつ、ルーブリック自己評価システムを使って災害看護研修に導入することを考えている。

なお、ルーブリック自己評価システムの使用感については、すでに汎用的能力評価システムのア

ンケート結果から手軽に自己評価できるという評価を学生から得られていたが、今回の研修コンテンツの専門家レビューを実施した際にも「使いやすかった」との評価を得ることができた。

4 おわりに

コンピテンシーの構造と評価指標としてのデータモデルの検討を行った結果、コンピテンシーに評価の尺度を追加することで、これまで開発を続けてきたルーブリック自己評価システムをコンピテンシーに応用することが可能であった。奈良県看護協会の協力もあり、災害看護研修に実際に導入し、受講者、研修講師、奈良県看護協会のそれぞれの立場からどのように支援することができるのか、今年度の e ラーニングおよび対面での研修を通じて検証を行う予定である。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 20K03075, 20K11147, 17K12805 の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 渡辺博芳, 荒井正之, 佐々木茂, 盛拓生, 古川文人, 水谷晃三, 眞坂美江子, 塩野目剛亮, 高井久美子, 有本泰子: 汎用的能力評価のためのルーブリックとチェックリストの提案, 情報教育シンポジウム論文集, Vol.2019, pp.30-37, 2019.
- [2] 宮崎誠, 渡辺博芳, 眞坂美江子, 高井久美子: 汎用的能力評価システムの開発とその試用, 情報処理学会研究報告, Vol.2021-CLE-33, No.9, pp.1-8, 2021.
- [3] 宮崎誠, 渡辺博芳, 眞坂美江子, 高井久美子: CASE に準拠した自己評価システムの開発, 第 46 回教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.163-164, 2021.
- [4] 堀内美由紀, 松葉龍一, 宮崎誠: 学習目標の明確化を目的とした災害初動における臨床看護師に求められるコンピテンシーに関する一考察, 第 11 回 日本医療教授システム学会学術大会, 札幌, 2019.
- [5] 鈴木克明: **ibstpi(R)**コンピテンシー標準: その動向と活用法(依頼論文), 医療職の能力開発, 日本医療教授システム学会論文誌, 5(1), 1-8, 2017.
- [6] 鈴木克明: オンライン学習者コンピテンシー標準をどう活用すればよいか, 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集, 160-161, 2012.